

留学生就職促進プログラム 中間評価所見

大学名：熊本大学

○「留学生就職促進プログラム委員会」における所見

1. 全体の進捗状況、取組と就職率向上の見通し

○概ね計画通りの取組である。

留学生、関係団体機関と連携しながら計画通りに進められている。留学生のリクルートや定着にハンディがある地方大学による、地方都市での地元定着の取組としてモデル的な取組と言える。

国内就職者数が増加しており県内就職者の割合も高い。就職率については、平成30年度の数値目標をクリアはしている。ただし、令和3年度の就職率の目標値を達成するためには、課題を分析しつつ更なる取組が求められる。

2. プログラムの内容の進捗状況

○概ね計画通りの取組である。

ビジネス日本語は、N3未満者に対する底上げを図るなど、今後の計画目標達成のための施策検討が認められる。ただし、本プログラムにおけるビジネス日本語の教育と、従前から行われている日本語教育を分けて成果を整理する必要がある。キャリア教育については、地元根差したキャリア講座を行っており、地元での就職活動の土壌づくりに役立っている。インターンシップは、実施状況が計画値を下まわっていることについて、原因を分析し対策をとる必要がある。

更に今後は、就職意向調査に基づいたきめの細かい対応が課題であると思われる。

3. 実施体制の構築、活動状況

○概ね計画通りの取組である。

サブコーディネーターの追加など柔軟な対応ができており、学内の体制構築は比較的しっかりできている。また、コンソーシアム運用については円滑に進められていることが確認できる。

今後取組を活性化し成果を上げるために、参画企業の確保、産業界や自治体との一層の連携強化を更に進める必要がある。

4. 他大学が参考にできる事項等

○日本人学生によるGSA (global student assistant) は、留学生と日本人学生の交流を促す上でも注目すべき取組である。この取組を含めたラーニングコモンズの積極的な活用や、英語によるガイダンスの実施ならびにN3未満の学生の参加を促すことによる意識付けと底上げを図る取組については、他大学の参考となり得る。